

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1 月 20 日実施)	総合評価 (3 月 6 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の多岐にわたる進路に対応した教育課程の編成と協働した学び、ICT 利活用授業の研究推進に取り組む。</p> <p>②生徒会活動や学校行事等を充実させ、生徒の自主的、実践的な態度を育成する。</p>	<p>①協働した学びをより充実させ、ICT 利活用授業研究推進校として成果をあげる。</p>	<p>①年 2 回の授業研究週間と公開授業・研修会を実施する。</p> <p>①ICT を利活用した授業を進めるための校内研修会を実施する。</p>	<p>①生徒による授業評価で、生徒間で意見交換する機会があったとする生徒が 8 割以上となったか。</p> <p>①ICT を利活用した授業が各教科で 1 つ以上あり、ICT を利活用した教員の割合が 50%を超えたか。</p>	<p>①生徒による授業評価の結果、生徒間で意見交換する機会があったとする生徒は、1 学年 84.9%、2 学年 83.4%、3 学年 83.7%、全体で 84.1%と目標を達成できた。</p> <p>①国語、地歴・公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭科、全ての授業でプロジェクトやタブレットが活用されており、50%を超える職員が何らかの ICT 利活用授業を行っていた。</p>	<p>①生徒間で意見交換する機会があったとする者の割合は昨年度 78.5% (全体) で、わずかに目標の 8 割に届かなかったが、今年度は、ついに目標を達成することができた。</p> <p>積極的な ICT 利活用が進んでおり、ハード面におけるプロジェクトの台数等も増え、ICT の学習環境が整って来た。</p> <p>来年度は、指定校 3 年目であり、研修会や特色研究チームでの議論を重ね、集大成の年にする必要がある。</p>	<p>①協働した学びは成功しているのか、新学習指導要領を見据えて、主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善は進んでいるか継続して検証する必要がある。</p> <p>ICT 利活用授業研究の推進により、一層の学習指導の工夫・充実に向けた取組がなされ、成果が上がっていると思われる。</p>	<p>①授業研究週間、公開授業・研修会を実施し、他校からの来校者から意見をいただくことができた。ICT 利活用については、生徒の成果発表や職員の研究発表を行い他校に発信することができた。</p> <p>職員向け校内研修会も長期休業中等を利用して複数回行った。職員の意欲も高くスキルも高まった。</p> <p>クラウドサービスを導入しているが、一部の生徒には、効果的な取組になっているが、その他の生徒の自学自習には結びつかなかった。</p>	<p>① ICT 利活用授業研究では一定の成果が得られた。来年度は、研究指定の最後年であり、何らかの形で成果をまとめた。</p> <p>国語、数学、英語において、宿題など意図的にクラウドサービスの積極的な活用を促し、春・秋二回の到達度テストを動機付けとして、学習週間の確立と学力向上を目指す。</p> <p>特に高いレベルの学習を目指している生徒に働きかける。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣の定着と規範意識の醸成により、生徒が安心・安全で豊かな学校生活を送れるよう、生徒指導の充実を図る。</p> <p>②部活動の活性化を通じて、生徒の主体性と自主性を育むとともに、生徒支援・教育相談を充実させる。</p>	<p>①SMAP (城山・身だしなみ・挨拶プロジェクト) を実践し、問題行動の防止、交通安全や社会的なモラルの意識向上を図る。</p> <p>②部活動の活性化を図り、部活動加入率を上げる。</p>	<p>①年 3 回の生活見直し週間以外に SMAP 実施週間を位置づけ、生徒へ声かけを行う。</p> <p>①春と秋の交通安全デーを充実させる等、警察や交通安全協会との連携を図る。</p> <p>②部活動紹介の充実や 1 学期末の再チャレンジで部活動加入を呼びかける。</p>	<p>①年 3 回以上 SMAP 実施週間を設定できたか。</p> <p>①特別指導件数や交通事故件数が減少したか。</p> <p>②部活動加入率が 60%を超えたか。</p>	<p>①各学期に SMAP 週間を設け (年 3 回)、正門付近で登校する生徒に声かけを行った。</p> <p>②特別指導件数・人数はほぼ横ばいだったが、携帯指導が増加した。</p> <p>交通事故件数は前年に比べ増加した。</p> <p>③部活動加入率は、男子は 63.2%、女子は 44.4%であった。</p>	<p>①従前から実施していた生活見直し週間に加え、SMAP の一層の定着化を図る。</p> <p>交通事故の防止と特に自転車の交通安全マナー向上を引き続き呼びかける。</p> <p>①運転免許取得届を提出させ、生徒への交通安全の啓発に努める。</p> <p>②部活動への積極的な加入、特に女子の加入率の向上が課題である。</p>	<p>①自転車通学の安全を考えた時に、従前から通学道路の幅員が狭く、朝の時間帯の通行車両が多いという課題がある。</p> <p>マナーの悪さ、ルールの無視による事故もあり指導の徹底をお願いしたい。</p> <p>SMAP は、外部の間から見ても分かりやすいフレーズでも良い取組だと思う。</p> <p>②部活動指導における教員の働き方改革が言われており、部活動活性化も難しい時代に来ている。</p>	<p>①生活見直し週間や SMAP での声かけは、生徒と教師の望ましい人間関係の構築に役立つと思われる。</p> <p>交通安全については、継続的な指導、意識の醸成を図る必要がある。</p> <p>特別指導の数については、ほぼ横ばいであるが携帯・スマホの指導が増えたことが懸念される。</p> <p>今後も粘り強い指導をいかに実践していくかが課題である。</p> <p>②部活動の加入、活性化は、男女差が大きく魅力ある部活動にいかにしていくかが課題である。</p>	<p>①生活見直し週間及び SMAP については、今後も計画的・組織的に展開し、より積極的な生徒指導を目指す。</p> <p>学年集会やポスター、標語などにより、交通事故や問題行動の一層の減少、生徒が安心・安全で豊かな学校生活を送れるよう、生活指導の充実を図る。</p> <p>②部活動加入に向けた積極的な取組と新たな方策を検討する。</p>

3	進路指導・支援	<p>①生徒の多岐にわたる進路希望に応じたキャリア教育の充実を図る。</p> <p>②自分なりの職業観、勤労観を持ち、進路希望の実現に向けて努力する生徒を育成する。</p>	<p>②インターンシップ、高大連携等により、生徒の意識を高め、併せて保護者対象進路説明会の充実を図る。</p>	<p>②生徒にインターンシップ、高大連携参加の呼びかけを積極的に行う。</p> <p>②年3回の保護者向け進路説明会（ガイダンス）の充実を図る。</p>	<p>②インターンシップ参加者が昨年度比で5名以上増えたか。</p> <p>②進路説明会に3割以上の保護者が来校したか。</p>	<p>②インターンシップ参加者は、今年度20名と昨年度の66名を大きく下回った。特に1年生の希望者が少なかった。</p> <p>②保護者対象の進路説明会は、4月に2年生、10月に1年生を対象に実施したが、共に3割から4割の保護者が来校し、目標を達成できた。</p>	<p>②インターンシップは、保育・看護の体験希望者を中心に実施している。この傾向は続くと思われるので、声かけをより丁寧にしていきたい。一方、高大連携の授業聴講や研究室体験は、時間と場所の条件が合わず、参加しにくいという課題がある。</p> <p>②保護者対象の進路説明会は、保護者の関心も高いので、年間行事に位置づけ、充実させていきたい。</p>	<p>②インターンシップは実際の職業観を得る上で重要だと思われる。保護者説明会も新しい情報を知る良い機会である。</p> <p>法政大学との連携で実施したSEET（環境教育の授業）も継続してお願いしたい。</p> <p>相模原市教育委員会が小・中学校の教員希望者向けの出前講習を実施したことは良い試みである。</p>	<p>②1年生で分野別進路ガイダンス、2年生で上級学校見学会、小論文指導、学校別ガイダンス、3年生で進路別ガイダンス、実用講座を設定し、多様な進路希望に応じたキャリア教育を実施した。</p> <p>進路ガイダンスやインターンシップ、進路の手引き、スタディサポートや実力判定テストの活用などで、生徒の希望進路実現に向けた支援の継続が課題である。</p>	<p>②学年に応じたガイダンス等の適切な企画を今後も検討する。</p> <p>スタディサポートや実力判定テスト、スタディサプリの効果的な利用を検討する必要がある。</p> <p>大学に入ればよいという指導ではなく、生徒の将来まで見据えたキャリア教育の視点に立った進路指導の充実を図る。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域と共に歩む学校づくりを目指し、地域との協働・連携を一層強める。</p> <p>②学校へ行こう週間、輝城祭、ホームページ等を通して、地域へ積極的に情報発信する。</p>	<p>②各種行事のPR方法の工夫、ホームページの定期的な更新と内容の充実を図る。</p>	<p>②ホームページの城山の日に新情報を載せるとともに、各項目の内容を定期的に更新する。</p>	<p>②ホームページは、確実に更新されたか、また各種行事の来校者数が昨年度より、3%以上増えたか。</p>	<p>②6月の輝城祭体育の部では、来校保護者数が267名（昨年285名）と6%減少した。8月の学校見学会では中学生・保護者数が623名（昨年561名）と11%増加、9月の輝城祭（文化の部）では来校者数が1,453名（昨年1,373名）と6%増加、11・12月の入試説明会では中学生・保護者数が443名（昨年439名）と1%増加した。</p>	<p>②ホームページのトピックス（新着情報）の更新は、昨年度より円滑に進めることができた。しかしながら、過去の掲載ページが何年も更新されずに残っている箇所があり、今後の課題である。</p> <p>各グループで担当を決めて、ホームページによる情報提供を充実させる必要がある。</p>	<p>②ホームページは、見る人はよく見ているので管理運営を疎かにしてはいけないと思われる。</p> <p>高校生も自治会など地域と積極的に関わって欲しい。若い世代（高校生）の力を必要としており、様々な場面で活躍してもらいたい。</p> <p>日頃のコミュニケーションが大切であり、特に野球部の部員の挨拶は大変素晴らしい。いつも元気をもらっている。</p> <p>地元で愛される学校を今後も目指して欲しい。</p>	<p>②ホームページの更新は、昨年度より円滑に進めることができたが、過去の掲載ページが更新されていない状況があり、今後の課題である。</p> <p>来校者数は、輝城祭体育の部と11・12月の入試説明会が目標の+3%を達成できなかった。</p> <p>中学校訪問の成果もあり、中学生への案内が周知され、学校説明会等の来校者数は増加傾向にある。</p>	<p>②ホームページを広報活動の重要なツールとして、一層の充実を図り活用していく。</p> <p>内容を充実させるために生徒の活動等をこまめに記録し、ホームページの定期的な更新を図る。</p> <p>各グループでホームページ担当を決めて、より見やすく分かりやすい情報提供に努める。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①学習環境の整備と防災・防犯意識の醸成、安全教育の充実を図る。</p> <p>②事故・不祥事防止の徹底を図り、信頼される学校づくりを推進する。</p>	<p>①消防・警察署等と連携し避難訓練や安全教育を充実させる。</p>	<p>①避難訓練において、消防署からの助言を受けるとともに、災害図上訓練（DIG）を実施する。また、警察署による交通安全教育等を実施する。</p>	<p>①防災意識の醸成や安全教育の充実を図ることができたか。（アンケート）</p>	<p>①6月・11月に防災訓練、シェイクアウト、9月に環境美化委員会の生徒を対象に初めてDIG訓練を実施した。また、その成果を防災訓練（全校集会）で発表した。</p> <p>5月に1年生対象の交通安全教育「自転車マナー教室」を津久井警察署の協力で実施した。</p>	<p>①災害図上訓練では、城山高校近辺の地形を学び、災害時における避難経路や避難場所等のシミュレーションをすることができた。</p> <p>今後は、他生徒へ波及させていく取組が必要である。</p> <p>①交通安全教育は、講義形式で話を聞くだけでは限界があり、より実効性のある方策を検討したい。</p>	<p>①生徒に心身ともに健康で豊かな情操と高い教養を身につけさせ、最終的に地域に貢献できる人間を育てたいという城山高校の教育目標に共感する。</p> <p>今後も学業だけでなく、防災や防犯においても積極的に地域に貢献できる人材を育成してもらいたい。</p>	<p>①防災訓練として実施した災害図上訓練では、城山高校近辺の地形を学び、災害時における避難経路や避難場所等のシミュレーションをすることができた。また、防災備蓄品の試食を実施したことは有意義であった。</p> <p>交通安全教育については、継続した粘り強い取組が必要である。</p>	<p>①災害図上訓練については今年度の教材や指導方法の改良や改善に努め、より効果的な訓練の実施を図る。</p> <p>交通安全教育では、相模原市と連携した取組（セルクル）で学校周辺の危険箇所を予め調査した上で講義を行う新しい手法を取り入れる。</p>